



学校の役割

昨年の9月22日に発出したものと一緒です。運動会が終わり、ホッとしやすい時期だからこそ改めて確認します。

満6歳を迎えた翌年の4月から小学校に入学し、15歳を迎えた3月に中学校を卒業するまで、子どもたちは義務教育のもと『学校』に通います。**(正確には保護者が学校に通わせる義務のもとになります)**

では、この9年間で子どもたちは何を学ぶのでしょうか？漢字や計算などの基礎知識でしょうか？家庭科の調理実習でしょうか？体育の逆上がりでしょうか？

子どもたちの日々の活動は時間割や行事に表れています。しかし、学校の役割となると「できた」「楽しかった」ということとは少し違うように思います。そこで学校の役割を子どもたちの将来を見据えてとらえると…

『自己決定できる力を培う』

人生の岐路がいつか訪れます。その時、自分はどうしたいのかを自分で決めなければ後悔します。他人のせいにするのは非難の的です。**自分の意見を考えたり、出したり、明確な自分の立場を表現したりすることを通して**培います。

『他の人の気持ちを理解する力を培う』『コミュニケーション力を培う』

社会生活を営む上で、他者との関りを皆無にすることは現実的ではありません。リモートが普及しても画面の向こうには相手があります。学校生活を通して**様々な人と交わることで社会性を育てます。時には不快な思いをすることも**かもしれません。しかし、一生快適な人生も現実的ではありません。どうやって乗り越えるかも大切な学びです。

『自己実現できる力を培う』

なりたい自分になれることは、人生においてとても重要なことです。子どもたちの可能性は無限大です。しかし、何の力も蓄えずなりたい自分になれるのでしょうか。**進みたい道に必要な知識や技能ばかりでなく、基礎的な学力が備わっていない場合、進みたくても進めないことが少なくありません。**

「なりたい」「したい」だけで道は拓けません。義務教育期間の9年間は、なりたい自分になるための基礎的な力を蓄える時期でもあります。